

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

Reference

(11)特許出願公開番号

特開平5-102909

(43)公開日 平成5年(1993)4月23日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 B 7/26

H 0 4 M 1/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

V 6942-5K

N 7117-5K

審査請求 未請求 請求項の数2(全3頁)

(21)出願番号

特願平3-263468

(22)出願日

平成3年(1991)10月11日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 山崎 誠一

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

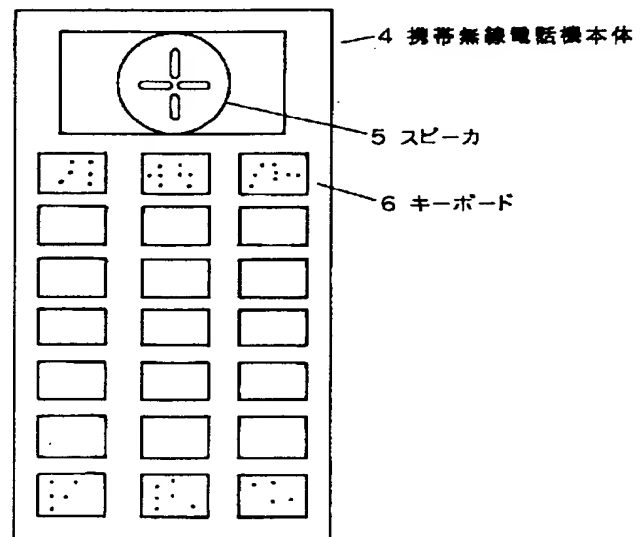
(74)代理人 弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 携帯無線電話機

(57)【要約】

【目的】 従来のように表示部を目視することなく点字による迅速、容易な入力操作ができ、さらに入力操作の確認を音声で容易にできるようにする。

【構成】 所用の電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報をキーボード6を順次押下して入力する、同時に、この入力情報を携帯無線電話機本体4内の図示しない音声変換部で音声信号に変換して、スピーカ5から音声出力する。また、入力される電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報とともに、この入力情報に対応した応答内容をスピーカ5から音声出力する。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯無線電話機本体の外装面に配置されて、情報の入力操作を行う点字配列のキーボードを備える携帯無線電話機。

【請求項2】 携帯無線電話機本体の外装面に配置されて、情報の入力操作を行う点字配列のキーボードと、前記キーボードから入力された情報を音声に変換する音声変換手段と、前記携帯無線電話機本体に配置されて前記音声変換手段からの音声信号を音声出力するためのスピーカとを備える携帯無線電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、コードレス電話機、セルラー電話機等に利用する携帯無線電話機に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種の携帯無線電話機は、自動車電話機と同様に構成されている。

【0003】 図2は、この従来の携帯無線電話機の操作面を示している。図2において、1は携帯無線電話機本体であり、2は発呼の際の電話番号等を表示する表示部、3は機能選択、電話番号等を入力するためのキーボードである。次に、この構成における動作について説明する。

【0004】 キーボード3からの入力操作による機能選択、電話番号あるいは、その応答内容が表示部2に表示される。利用者は表示部2に表示される内容を確認しながら、所望の機能選択の操作を行う。

【0005】 このように、従来の携帯無線電話機でも、キーボードを目視して所望の操作が行できる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の携帯無線電話機では、キーボード3は平面的な個々のキースイッチに印刷文字が表示されている。また、表示部2は液晶あるいは発光ダイオードによるディスプレイである。したがって、表示部2を目視しないでは容易に入力操作ができないという欠点がある。

【0007】 本発明は、このような従来の課題を解決するものであり、目視を不要にして、点字による迅速、容易に情報の入力操作ができ、さらに入力操作の確認が音声で容易にできる優れた携帯無線電話機を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 この目的を達成するために、本発明の携帯無線電話機は、携帯無線電話機本体の外装面に配置されて、情報の入力操作を行う点字配列のキーボードを備えるものである。

【0009】 さらに、携帯無線電話機本体の外装面に配置されて、情報の入力操作を行う点字配列のキーボードと、前記キーボードから入力された情報を音声に変換する音声変換手段と、前記携帯無線電話機本体に配置され

て前記音声変換手段からの音声信号を音声出力するためのスピーカとを備えるものである。

【0010】

【作用】 したがって、本発明の携帯無線電話機によれば、点字配列のキーボードから所用の電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報の入力操作を行い、また、入力情報および応答内容を音声変換して、スピーカから音声出力するようにしているため、従来の表示部のように、目視することなく点字による迅速、容易な入力操作ができ、さらに入力操作の確認が音声で容易にできる。

【0011】

【実施例】 以下、本発明の携帯無線電話機の実施例を図面をもとに説明する。

【0012】 図1は実施例の構成を示している。図1において、4は携帯無線電話機本体であり、5はスピーカ、6は、点字による数字、文字および記号が、従前の図2に示したキーボードと同様に配置されたキーボードであり、所用の電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報を入力する。

【0013】 次に、この構成における機能について説明する。所用の電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報をキーボード6を順次押下して入力する、同時に、この入力情報を携帯無線電話機本体4内の図示しない音声変換部で音声信号に変換して、スピーカ5から音声出力する。また、入力される電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報とともに、この入力情報に対応した応答内容をスピーカ5から音声出力する。

【0014】 このようにして、目視することなく点字による入力操作がキーボード6からでき、同時に入力される電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報および、この入力情報に対応した応答内容がスピーカ5から音声出力されるため、従来のように表示部を目視する必要がなくなり、迅速、容易な入力操作ができ、さらに音声による入力操作の確認が容易にできることになる。

【0015】

【発明の効果】 以上の説明から明らかなように、本発明の携帯無線電話機は、点字配列のキーボードから所用の電話番号あるいは機能選択、設定項目の情報の入力操作を行い、また、入力情報および応答内容を音声変換して、スピーカから音声出力するようにしているため、従来の表示部のように、目視することなく点字による迅速、容易な入力操作ができ、さらに入力操作の確認が音声で容易にできるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の携帯無線電話機の実施例の構成を示す平面図

【図2】 従来の携帯無線電話機の構成を示す平面図

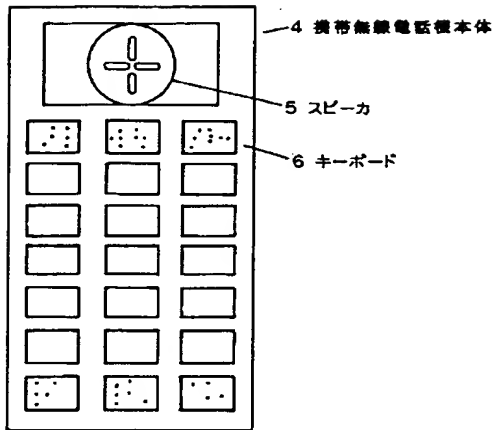
【符号の説明】

4 携帯無線電話機本体

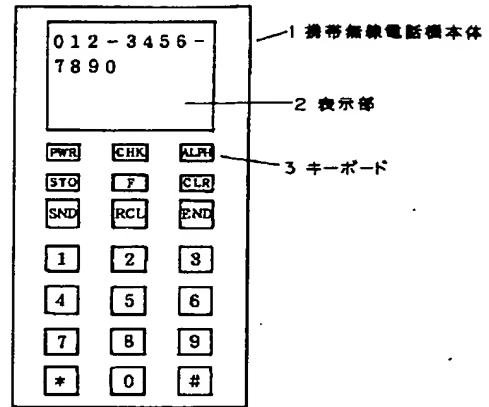
5 スピーカ

6 キーボード

【図1】



【図2】



BEST AVAILABLE COPY